

瀬戸大橋架橋の島々の地域資源調査

代表者 川淵 瑞葵（経済学部経済学科2年）

1. 目的と概要

この事業では、瀬戸大橋架橋の島々を調査することで、私たちの活動拠点である香川県坂出市の魅力をさらに深く理解することを目的としている。また私たちさかいで沙弥島プロジェクトは通称橋Pと呼ばれていることから瀬戸大橋にこだわって活動の幅を広げたいと考え、この事業での活動を開始した。来年度以降に、瀬戸大橋架橋の島々である与島、岩黒島、櫃石島を結ぶ路線バスを活用した観光モデルコースを坂出市に提案し、3島を活性化するという最終目標のために、本年度は3島の資源調査を行った。そして資源調査をもとに3島の観光スポットなどをまとめたパンフレットを作成し、私たちの活動拠点である瀬戸大橋記念館展望談話室にて配布し、多くの人にその魅力を届けた。

2. 実施期間

令和4年7月1日から令和5年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

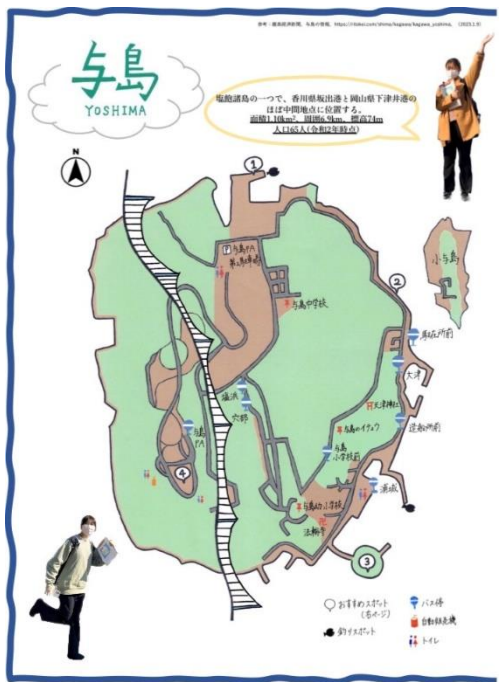
この事業は、瀬戸大橋に架かる島々を調査し、バスツアーを提案することを目的としている。今回は、島の調査をメインに行った。瀬戸大橋に架かる坂出市の島は、沙弥島、与島、岩黒島、櫃石島の4つがある。沙弥島は私たちの現在の活動拠点のため、他3島を調査した。効率的な移動を考え、海上タクシーを利用して、各島々を訪れた。フィールドワークでは、島の散策、自治会長さんや漁業組合長さんへの取材、島民に直接お話を伺うなどをして、情報収集を行った。また、この情報収集を通じて、路線バスを活用した観光モデルコースの提案は、単に島の観光を目的としたものだけではなく、島民の生活における「足」となっている移動手段を維持継続することにも繋がることが分かった。

今回の調査結果は、各島々の魅力をひとつのパンフレットとしてまとめ、私たちが瀬戸大橋記念館展望談話室で運営するHashicafeで配布している。

今回は、島の調査を行ったが、来年度はバスツアー作成に向けて、今回の情報を活かし、計画していきたいと考えている。また、今回の事業により、実際のバスツアーに向けて、与島、岩黒島、櫃石島の3島の調査したことをすべてパンフレットに詰め込んだことで、各島々への関心を高めることに繋がっただろう。これからのバスツアー考案に向けて、SNSでの情報発信や、パンフレット配布でより多くの人に今回調査した3島を知っていただけるよう、私たちの広報の幅も広がったと考えられる。



(↑3島のフィールドワークの様子)



(←パンフレット)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を実施したことにより、3島を知らなかった人々にその魅力や情報を届けることができたと考える。先にも述べた通り、私たちは与島、岩黒島、櫃石島の3島についての情報をまとめたパンフレットを作成し、それを運営するHashicafeにて配布している。来客者に「カフェ以外にもこんな活動をしているのですね」「自分たちでパンフレット作ったのですか、すごいですね」と声をかけていただき、多くのみなさまにパンフレットを手にとってもらっている。このプロジェクトを実施したことで3島の魅力を知るきっかけを届けられたのではないかと考える。また、パンフレットを見た来客者に「香川大学の学生なのですね」と言われたこともあり、香川大学の活動が地域に根差したものであると知ってもらうことができた。

5. 自分たち学生生活に与えた影響や効果等

今回実施したプロジェクト事業は、天候や予算などさまざまな問題に直面しながらも、学生達が主体となって企画し、協力して問題を解決しながら最後までやり遂げることが出来た。このような経験が出来たことにより、私たちの学生生活の中でも、学業やサークル活動などで困難に直面した際、今回の成功体験を活かして問題に取り組むことが出来るようになった。新型コロナウイルスの影響で大学内でのグループワークなどの機会が少ない中、仲間と協力して何かに取り組むという経験が出来たことは大変有意義であったと思う。

6. 反省点・今後の展望(計画)・感想等

反省点としては、まず、天候の関係で海上タクシーを利用した3島調査の日程がずれてしまったことである。調査の予備日を決めておく必要があった。また、その影響でパンフレットの作成も遅れてしまったので、調査の日程がずれた時点でスケジュールを組みなおすべきであった。また、3島調査は3回とも調査メンバーが異なるため、調査に行ったメンバーと行っていないメンバーの情報に差があったので、調査の振り返りの時間を多く確保すべきだったと思う。パンフレットを作成するときにも全体での進捗確認や報告があれば、よりスムーズに作成できたと考える。今回の資源調査を通じて、さかいで沙弥島プロジェクトメンバーが普段の活動拠点外である坂出市の与島、櫃石島、岩黒島の現状や価値ある資源などを把握できたことは、学生に新たな視点を与えることになったので有意義であったと考える。特に少子高齢化が進んでいることや島での暮らしの様子、不便さなどを学ぶことができた。島民の方の意見には静かに暮らしたいというものもあったので、島民の考えも聞きながら今後も計画していきたいと思う。

今後は、この資源調査を活かして、路線バスを活用した観光モデルコースの提案や路線バスの維持継続について、引き続き考えていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	川渕 瑞葵	(経済学部・2年)
構成員	市名 彩乃	(経済学部・3年)
	岡本 涼	(経済学部・4年)
	原 沙月	(経済学部・4年)
	宮脇 令佳	(経済学部・4年)
	横田 玲那	(経済学部・4年)
	稼勢 敦貴	(創造工学部・4年)
	大本 航	(創造工学部・4年)
	星隈 泉穂	(創造工学部・4年)
	中西 智哉	(農学部・4年)
	加藤 渚	(経済学部・3年)
	蛭子 新	(経済学部・3年)
	朝長 知夏	(経済学部・3年)
	井上 俊助	(経済学部・3年)
	中道 祐紀	(経済学部・3年)
	大西 茉彩	(経済学部・2年)
	坂本 華美	(創造工学部・2年)
	奥田 茂人	(経済学部・1年)
	金田 小万智	(経済学部・1年)
	佐々木 向日葵	(教育学部・1年)
	中道 葉菜	(経済学部・1年)
	難波 香好	(経済学部・1年)

8. 執行経費内訳書

配分予算額		191,220円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
チャーター代(高松から各島)	3	45,000	135,000	
パンフレット代	150	208.2	31,230	
パンフレット振込手数料			660	
合計			166,890	